



# Design

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外20号です。表面は、地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れた事例の紹介と地域の皆様から頂戴したご意見・ご要望へのお返事です。裏面は、老健やましろからのお知らせです。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

## 地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れた事例の紹介（第37回）

### ～ 病歴、投薬内容、ADLをお知らせ下さい～

患者さんは90歳代女性、在宅酸素療法を実施しているため、介護保険のショートステイ利用が困難とのこと。担当ケアマネジャーから地域包括ケア病棟“彩り”の入院について相談を頂戴しました。

相談の時点では、かかりつけの先生からの紹介状はありませんでしたが、担当ケアマネジャーからの情報提供を元に病歴や投薬内容、ADLなどを確認し、受け入れの段取りを行いました。そして、患者さんは近日中に地域包括ケア病棟“彩り”に入院予定です。

今回の事例のように事前に紹介状がなくても、相談の段階で受け入れの段取りすることが可能な場合もあります。特に入院をお急ぎの場合には、皆さんが把握しておられる情報を元に、素早く受け入れの段取りをさせていただきますので、最新の情報を頂戴できればと思います（入院時にはかかりつけの先生からの紹介状が必要です）。（地域医療連携室 主任 中嶋 庸介）

## 地域の皆様から頂戴したご意見・ご要望について その⑦

地域のケアマネジャーの皆様や訪問看護ステーションの皆様のところへ訪問させて頂いた際、頂戴したご意見・ご要望と改善策をお知らせします。

**施設への入所を待っていますが、その間、地域包括ケア病棟で受け入れしてもらえますか？**

（ケアマネ）

お受け入れ可能です。施設入所までのおおよその待機期間をお知らせ下さい。地域包括ケア病棟は原則、最大60日間の入院期間となりますので、待機が60日を越えそうであれば、必要に応じて、当院併設の老健やましろの入所も検討させていただきます。

（地域医療連携室 主任 中嶋 庸介）

## 老健やましろでは、通所リハビリを利用される方を募集しています。

### ～ 1日体験利用も実施しています～

通所リハビリは、リハビリ科セラピストによる個別訓練が受けられます。1日体験利用も実施しています。お気軽にお問い合わせ下さい。0774-73-0359（担当・古川）

## 老健やましろより

### ～ 一期一会 ～



紫陽花がきれいな季節になりました。毎年、この季節になると老健に来られるご家族がおられます。

このご家族のお母様は、他の療養型病院から当施設に入所され、約1年間、当施設で生活されていきました。病院入院中に比べ、老健はレクリエーションも多く、車椅子に座る時間が増えたこともあり、ご家族も毎日のように老健に来所され、お母様と一緒に過ごされる時間を作っておられました。

今から8年ほど前、この利用者様は特養への入所が決まり、当施設を退所されました。それから8年間、このご家族は、毎年この季節になるとご自宅の庭に咲いた紫陽花を持って当施設に来られます。先日も、わざわざバスに乗って、きれいな紫陽花と、ご家族のなつかしい笑顔をお届けにきてくださいました。残念ながら、お母様はその後亡くなられたとのことですが、利用者様の退所後も、定期的にご家族とお会いできることは大変うれしく思います。

その他にも、利用者様の退所後に、ご家族が老健に顔を見せてくださったり、利用者様やご家族の近況報告のお手紙をいただいたりすることがあります。入所中だけでなく、それ以降も利用者様やご家族の皆様との関わりを大切にできる老健でありたいと思います。

(老健やましろ 管理部長 三村 裕子)

## 認知症サポーター養成講座を開催しました。

### ～ 2年振り3回目の開催です ～



令和元年6月12日(水)、当院9階会議室で認知症疾患医療センターが主催となり認知症サポーター養成講座を開催しました。当院では約2年ぶり3回目で、院内外から49名が参加されました(院内30名 院外19名)。講師は、木津川市認知症キャラバンメイトでもある、老健やましろの大溝副施設長、畑山介護士です。

「認知症の方の立場になって考えよう」をテーマに、認知症ミニ講義とグループワークを行いました。今回は、地域包括ケア病棟「彩り」で活動して頂いている傾聴ボランティアの方々、老健やましろ通所リハビリのドライバーの方々など、認知症治療に直接関わる事はないものの、日常的に認知症の方と接点がある・関心を持たれている方が積極的に参加されました。グループワークで率直な意見を出してくださった事で、専門職の方が耳を傾け、ハッとさせられる事がありました。

世の中に専門職は沢山増えてきましたが、病気をわかっている、病気を抱えている人の事はわかっていない・わかったつもりになっている事もあるのではないのでしょうか。

研修の最後には、「認知症の人を応援する」意味を込めた、オレンジリングが手渡されました。新しいオレンジリングは、ロボのマークが入って愛らしいです。オレンジリングを付けて働く職員が増えることを願っています。(臨床心理士 谷川 誠司)